

授業科目名・形態	公衆衛生看護学実習 I	実習	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	日景 真由美・	開講期	4年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

個別事例（個人・家族）の看護上の問題を健康と社会的条件との関連から明らかにして、個別事例へ継続した家庭訪問指導を行い、家族支援や地域の社会資源を活用した生活支援の実際を学ぶ。また、地域の健康上の問題を把握して、集団を対象とした健康支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 個人・家族の健康問題を把握する一連の過程（情報収集・分析・健康問題の抽出など）を理解できる。
2. 個人・家族の健康問題の背景や地域の特性を掴み、対象のニーズに沿った支援計画の立案を理解できる。
3. 個人・家族の健康問題の解決に向けた保健師の支援活動の実際と、支援活動の評価を理解できる。
4. 健康問題の解決・改善のため、関係機関ならびに関係職種との協力・協働を理解できる。
5. 個別援助を通して、地域における健康支援の方法を考えることができる。

【授業計画・内容】

1. 実習概要
実習オリエンテーションで提示する（詳細は実習要項を参照）
2. 実習施設
秋田県内の市町村（4か所）

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

「公衆衛生看護技術論」で学んだ「家庭訪問」を振り返り、家庭訪問計画を立案する。
家庭訪問前に乳幼児の身体計測、血圧測定などの技術を復習する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護技術論」「母子保健活動論」「成人保健活動論」「高齢者保健活動論」などの
公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅲ、健康教育論、成人保健活動論、高齢者保健活動論、
母子保健活動論、健康課題別活動論Ⅰ、健康課題別活動論Ⅱ、公衆衛生看護技術論、家族看護論 など
で使用した教科書および配布資料、実習施設について収集した資料などを活用する。

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

事前学習（10%）、実習内容・実習記録・実習指導者の評価（90%）を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

これまでに学んできた知識や技術を活かして、地域で生活している人々の健康問題解決への支援活動を実践する実習になります。各自が目標を持って、積極的な姿勢で実習に取り組んでいきましょう。